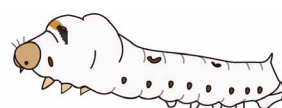




かい「こ」育て日記 ②



第2回は、2^{れい}齢幼虫から5^{れい}齢幼虫までです。3^{れい}齢までの小さな幼虫を稚蚕^{ちさん}といい、昔はこの時期まで共同で飼育を行い、農家に配布していました。はじめ米粒^{こめつぶ}より小さかったカイコは、あっというまに一元玉よりも大きくなり、5^{れい}齢幼虫になる頃には5cmを超える大きさになります。

5/29（土）☀

大半が2^{れい}齢幼虫になりました。まだ1cmにもなっていませんが、生まれた直後の倍以上です。1^{れい}元玉と比べるとよく大きさがわかります。眠^{みん}の最中の幼虫は、完全に動かないわけではなく、時々ぶるぶると体を震^{ふる}わせています。脱皮^{だっぴ}のときになると、体を波打たせて器用に殻を脱いでいきます。頭が大きいので頭を脱ぐときが一番大変そうです。脱皮したてのカイコは目の部分が透明ですが、頭を上げてじっとしているうちに徐々に黒^{えさ}くなっていき、完全に黒くなると餌を探して動き出しました。



2^{れい}齢幼虫になってすぐの大きさ



脱皮直後のカイコ（上）と
しばらく経ったカイコ（下）

5/31（月）☘

脱皮して2^{れい}齢幼虫になったカイコには、胸とお尻の近くに特徴^{とくちょうてき}的な模様があらわれます。胸の上のほうにあるのを「半月^{はんげつ}紋^{もん}」といい。「い」の字のような形の模様です。おしりの近くには「星状^{せいじょうもん}紋^{もん}」という2つの小さな模様があります。頭の近



2^{れい}齢幼虫の模様

くにある目玉模様（^{も よう}眼 状 紋^{がんじょうもん}）はまだ目立ちません。餌を食べるときは落ちないように糸で足場を作っているため、何匹か集まっているところには糸の塊^{かたまり}ができています。成長の早いカイコは再び眠に入りました。

6/1（月） 🍀 3 齢幼虫

眠に入っていたカイコが脱皮し、長さ1.8cm、太さが約3mm ほどの3 齢幼虫になりました。3 齢になったカイコは、より模様がはっきりとして、カイコらしい見た目になりました。



3 齢幼虫

6/2（火） 🌞

続々と脱皮して3 齢幼虫になっていきます。食べる量も増え、ものの一晩で2cm を超えてしまいました。その後一日で、大きな幼虫は長さ 2.5cm、太さが 5mm ほどになりました。

6/5（金） 🍀

何頭かが眠に入りました。カイコは3cm 近くの大きさになっています。眠に入ったカイコは表面が少しつやつやした感じになり、触^{さわ}ってももう動きません。



3 齢の眠に入ったカイコ

6/6（土） 🍀 4 齢幼虫に脱皮

4 齢幼虫になると、模様がよりはっきりしました。脱皮殻も大きくなり、エビの殻^{から}のように見えます。カイコはもりもりと餌を食べ、急激に大きくなります。



3 齢幼虫の脱皮（クリックで再生します。）

6/7（日） ☀

ほとんどのカイコが4 齢になりました。朝ケースの中を見ると声が出そうなほど急に大きくなります。体重も増えてきたため体を支えきれなくなり、餌を持ち上げると乗っているカイコはボトリと落ちてしまいます。一応爪で支えてはいるようで、下に敷いているキッチンペーパーから持ち上げるとベリベリとはがれます。

6/8（月） ☀

大きさは4cm ほど。どんどん食べてどんどん糞ふんをします。朝の餌だけでは足りないので夕方にも餌を交換するようにしました。体が大きくなり、カイコの白さが際きわ立って模様が目立ちます。



4 齢幼虫

6/10（水） ☂

何匹かが脱皮し、5 齢幼虫になりました。触ってみるとひんやりとして弾力があり、赤ちゃんの二の腕とほぼ同じ触り心地です。上から見ると血液を送り出す背中の背脈管はいみゃくかんが波打っているのがよくわかります。



5 齢幼虫の背脈管が動く様子（クリックで再生します。）

6/12（金） 🍀

半分ほどが5 齢幼虫になりました。吐く糸の量が増え、足元に糸の塊ができています。5 齢になった幼虫はせわしなく餌を食べ、一生で食べる餌の9割を5 齢で食べるといわれています。体重もどんどん重くなり、生まれた時の一万倍の重さになるそうです。まだ脱皮していない4 齢幼虫と比べると大きさの違いがよくわかります。

餌が不足しないよう朝晩2回餌やりをします。飼育ケースがすっかり狭くなったので、ダンボールに移し換え、5 齢と4 齢の二箱に分けました。そろそろ繭を作るスペース（まぶし）を準備しなければいけません。



5 齢幼虫



4 齢幼虫（左）と5 齢幼虫（右）



4 齢幼虫（上）と5 齢幼虫（下）